



国立看護大学校
NATIONAL COLLEGE OF NURSING, JAPAN

2022

知を磨き、
看護の未来を拓く



国立看護大学校
研究課程部

前期課程
(修士課程相当)

後期課程
(博士課程相当)

専門看護師
教育課程

がん看護・精神看護
小児看護・感染症看護

Graduate School of Nursing

知を磨き、看護

研究課程部

看護学研究科の4つの特長

政策医療看護学の
発展を通じた人々の
健康と生活への貢献

政策医療とは、「国が医療政策として担うべき医療」(厚生労働省)であり、国民の健康に重大な影響のある疾病に対する医療や国際医療協力活動などを含みます。本学は、この政策医療の一翼を担う看護の発展に向け、政策医療看護学の構築と発展を推進し、世界中の人々の健康と生活に貢献することをめざしており、それを実現できる人材を育成します。

研究を支える
教授陣の手厚いサポートと
充実した研究環境

看護職者としての実践、教育、研究経験が豊富で高い専門性を備えた教授陣が、学生の学修や研究を手厚くサポートします。図書館は、看護・医療を中心とした約66,000冊の図書、300タイトル以上の和・洋雑誌を収蔵し、約10,000タイトルの電子ジャーナルを利用できます。パソコンや統計ソフトなど、学修や研究に打ち込める環境も充実しています。



臨床に密着した研究活動と、未来に生きる政策提言の できる人材を育成する

本学の研究課程部(前期・後期課程)は、国が政策的な観点から担うべき医療(政策医療)における看護の質を高めるという重要な役割を担っており、これは他の看護系大学院にはない大きな特色です。また、先端医療を提供する6つの国立高度専門医療研究センターと連携して教育(含む、専門看護師教育)・研究が行われていることも特徴で、研究と実践とが密接にかかわりあう環境の中で学びを深めることができます。

研究は、看護の対象となる人々の苦悩や問題、不都合を敏感に感じ取るセンサーとそれらを何とかしたいという看護職としての在り方と大きくかかわっています。そのために学び、研究技法を磨き、得られた研究成果をより良い看護の実践や、より良い社会の実現につなげていくことが重要です。知恵と知識とスキルを磨き、社会に貢献できる人材であるとともに看護職としての成長も期待しています。

大学校長 井上 智子

の未来を拓く

大学院の修士・博士課程に相当する本学研究課程部看護学研究科は、政策医療看護学の推進という他の看護系大学院にはない特色と役割を担っています。また、充実した環境の中で学修や研究を進め、高い専門性を修得できます。このような本学の特長について、大きく4点をご紹介します。

国立高度専門医療研究センターとの強力なネットワーク

政策医療看護学の構築と発展を使命とする国立看護大学校は、政策医療を担う国立高度専門医療研究センター※(NC)と密に連携しています。NCは、日本屈指の高度先駆的医療を行う医療機関であり、学生は、NCとの強力なネットワークを活用し、専門性の高い学修や研究を進めていくことができます。

※国立高度専門医療研究センターとは、国立国際医療研究センター(センター病院・国府台病院)、国立がん研究センター(中央病院・東病院)、国立循環器病研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立成育医療研究センター、国立長寿医療研究センターを含む6センター(8病院)です。

専門看護師(CNS)教育課程

がん看護・精神看護・小児看護・感染症看護

成人看護学・精神看護学・成育看護学・感染管理看護学では、必要な科目を選択履修することで、がん看護・精神看護・小児看護・感染症看護専門看護師認定審査受験資格を得ることができます。既に多くの修生が、研究能力とともに専門看護師に求められる高度実践能力を磨き、感染症看護専門看護師、がん看護専門看護師、小児看護専門看護師として活躍しています。

社会の急速な変化や多様性に適切に対応できる人材を育成するためにエビデンスを発見・発信する基盤を築く

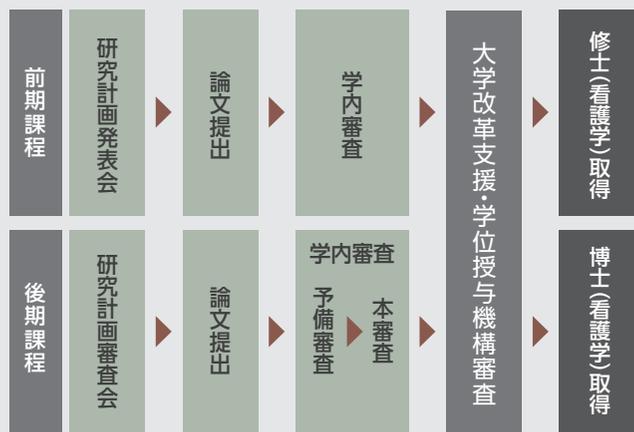
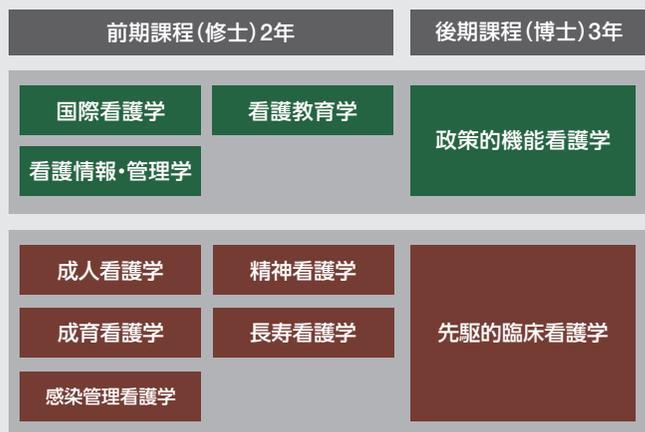
医療を取り巻く社会環境は日々変化します。科学・医療技術の進歩、多様な価値観、格差社会、グローバル化などが、医療・看護実践の場に刻々と影響を及ぼします。変化を予測し、問題の本質を見極めて解決するため、看護職には自身の感性や知識、技術を高め、協働するチームメンバーの力を引き出すリーダーシップ性が求められます。

本学研究課程部は充実した教育施設の中で、政策医療を担うナショナルセンターとの連携を生かした専門性の修得が可能であり、その学びの成果として、修士、博士の学位を取得することができます。また研究能力を高める過程は、臨床の場で重要なエビデンスを発見・発信するための能力、つまり情報探索力、文脈理解力、プレゼンテーション力、相談・調整力、組織構築力等の基盤となります。

人生100年時代。生涯にわたり職業を通じてキャリアアップをめざしましょう。そして、皆さんと共に学びあえることこそ、本学教員の願いでもあります。

研究課程部の概要

特別研究論文作成から学位取得までの流れ



前期課程(修士課程相当)

教育理念

ヒューマンケアの精神、人間の健康に対する多面的な理解、科学的・論理的な思考力に立脚し、研究を通して看護実践の科学的根拠や効果的・効率的なあり方を探究するとともに、政策医療看護学の発展とそれを通じた国内外の人々の健康と生活の質向上に貢献できる人材を育成します。

教育目標

- 1 健康に関わる要因を多面的に捉えて分析・考察できる能力を育成します。
- 2 研究を通して看護実践の科学的根拠を見出し、効果的・効率的な看護方法を開発する能力を育成します。
- 3 看護実践の質向上やその効果的・効率的な展開、高度実践看護を推進する能力を育成します。
- 4 政策医療看護学の発展に向けて指導役割、教育役割を担う能力を育成します。

教育の特徴

国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学、成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学の8分野から1分野を選び、専門的な学修を深めるとともに、修士(看護学)の学位取得に向けて特別研究論文を作成します。

特別研究論文を作成して学内審査に合格した後、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に申請し、論文の審査及び試験に合格することにより、修士(看護学)の学位を取得できます。

専門分野の教授陣が、学生個々の関心や状況に応じて細やかに学修や研究を支援します。また、他分野の教員からも研究に対する指導や助言を得る機会が豊富にあり、それは、自己の研究や専門性に対する視野を広げたり客観視したりすることにつながります。

自己の関心や状況に応じて選択できる多様な共通科目が提供されています。また、共通科目の学修を通し、質の高い看護学研究を行う基盤となる知識・技術・態度を効率的に修得できます。

成人看護学・精神看護学・成育看護学・感染管理看護学では、それぞれ必要な科目を選択履修することで、がん看護、精神看護、小児看護、感染症看護の専門看護師認定審査受験資格を得ることができます。

授業科目

共通科目

政策医療看護学特論I、看護研究法、看護理論、政策医療看護倫理、コンサルテーション、保健経済論、看護統計学、薬理学特論、ヘルスアセスメント特論、生理学特論、看護管理学、看護継続教育

専門科目

国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学、成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学

研究を通して自分自身の看護を振り返ることができました

大学の2期生として学び、卒業後は神経内科など長期療養を行う患者さんやご家族と多く関わってきました。そのような方々の療養生活をより豊かにするための看護がしたいという思いから、研究課程部への進学を決めました。前期課程では、病院勤務を続けながら栃木県から通学し体力的な負担はありましたが、尊敬する先生方の下、通いなれた校舎で再び学べる安心感がありました。後期課程まで継続して取り組む中では、これまで曖昧にしていた疑問や課題を言葉にして周囲の人々に説明し、問題解決に向け研究成果を積み重ねていくことの重要性を学ぶことができました。さらに、自分自身の看護についても見つめ直し、卒業後はより地域に密着した看護を目指し訪問看護師として働くことを決めました。今後は、地域での看護実践を行うとともに研究活動も継続していきたいと考えています。

先駆的臨床看護学 長寿看護学分野 後期課程
2019年3月修了

河田 美那子

専門分野・担当教員・研究テーマの例

国際看護学

国内外の人々の健康ニーズを踏まえ、多文化の中で看護実践するための理論や方法論を学習するとともに、国際保健・国際看護学の発展につながるような研究を探究する。

研究テーマの例

- 文化を超えた健康支援に関する医療人類学的研究
- 途上国における健康行動、エンパワーメント、ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアをキーワードにした調査研究
- 看護職の国際移動に関する質的研究

樋口まち子 教授

看護情報・管理学

看護管理学／看護情報学／基礎・クリティカルケア看護学

看護の機能や役割を効果的・効率的に発揮していくために、組織管理の基本概念を学習し、対象の理解、看護業務の把握、人材の育成と活用、情報管理などの視点から看護の質向上に寄与する方策を探究する。

研究テーマの例

- 看護師の自己効力感や組織コミットメント、人材育成と活用、業務分析、アウトカム評価など、看護管理に関するテーマについて、量的アプローチを用いた研究
- クリティカルケア領域における看護の機能・役割、患者・家族の経験に関する研究
- 看護情報の活用実態や情報の構造化についての研究、また、これに関連した看護情報システムに関する研究

小澤三枝子 教授 矢富有見子 教授 柏木公一 准教授
水野正之 准教授 森下純子 講師

看護教育学

看護職者の自律的な発達、それを支援する質の高い教育の実現に向け、看護学生や看護職者自身、あるいは、看護基礎教育や看護継続教育に焦点を当て、現状や望ましいあり方を探究する。

研究テーマの例

- 看護師や看護学教員のキャリア発達、それを支援する教育に関する研究
- 看護師や看護学教員の能力やその向上に関する研究
- 看護実践の質や研究成果活用に関する研究
- 新人看護師の職場適応、能力向上に関する研究
- 夜勤時の多重課題対策や新人看護師に対する支援に関する研究
- 看護職者が職業活動の改善に活用できる自己評価尺度の開発
- 看護基礎教育課程に在籍する学生に関する研究

亀岡智美 教授 上國料美香 講師

成人看護学 がん看護専門看護師教育課程あり

疾病を持つ患者と家族の反応・看護ニーズの理解を基盤に、がんや循環器病をはじめとした成人患者のセルフケア能力と、生活の質の向上を図る実践的看護法を探究する。

研究テーマの例

- 成人患者、特に循環器病とそのリスクファクター（糖尿病・高血圧・肥満・脂質異常症など）、慢性病の管理を必要とする患者の看護に関する量的・質的研究
- クリティカルケア、手術を受ける患者の諸課題に関する研究
- がん治療を受ける患者（手術、化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植など）や緩和ケア中の患者に関する量的・質的研究
- がん治療中の若年成人期AYA世代患者の実態と自己効力感に関連する要因
- 閉塞性動脈硬化症患者の日常生活における身体活動の実態とその関連要因

石井智香子 教授 飯野京子 教授 外崎明子 教授 遠藤晶子 准教授
杉山文乃 准教授 藤澤雄太 講師 長岡波子 助教 井上智子 大学校長

看護専門職として、発信する力を身に付けられる場所

私は修士課程を修了した後、看護の職能団体に就職しました。看護の素晴らしさと無限の可能性を臨床現場で感じてきましたが、それを看護職以外に伝えることは、とても難しいことでした。加えて、看護職の声を国に届け、政策提言を行うためには、誰もが納得する根拠に基づいたデータを示す必要があると痛感しました。そのため、研究課程部後期課程への進学を決めました。

大学院では、根拠に基づくデータを生み出すための研究技法の基礎を学びました。更には看護に限らず様々な先生方の講義を受け、多種多様な経験を持つ同志と出会い、たくさんの刺激を受け知見を広げました。3年間の学生生活により、目まぐるしく変化する保健・医療・福祉の未来を見据え、看護職の1人として考え、自分の言葉で発信する力を身につけることが出来ました。

先駆的臨床看護学 成人看護学分野 後期課程
2020年3月修了

矢澤 祐貴

精神看護学 精神看護専門看護師教育課程あり

精神障害者の回復と生活の質の向上または心の健康課題に直面している人々のメンタルヘルスを実現するために、対象者のニーズや希望、社会構造・環境、精神医療政策・医療支援システム、看護倫理など多面的な観点から、看護上の課題と役割について探究する。

研究テーマの例

- 精神障害者のリハビリ、エンパワメント、レジリエンスに関する研究
- 精神障害者の意思決定支援、自立支援、社会参加に関する研究
- 精神医療に関連のある現象の解明、実践知の理論化、および看護援助技法の開発に関する研究
- 精神障害者の家族に関連のある現象の解明、実践知の理論化、および専門職としての支援法の開発に関する研究
- ストレスマネジメント、地域住民の心の健康づくり、自殺予防、対人援助職としての看護師自身の心のケア等、メンタルヘルスに関する研究

森真喜子 教授 松浦佳代 助教 新田真由美 助教

長寿看護学

老年看護学／地域・在宅看護学

健康長寿社会を目指し、高齢者及び地域で生活する人々の自立促進や自立支援、健康づくりに関する長寿看護学の役割と課題を考察し、社会構造、家族・地域、在宅介護支援などに関する研究課題と実践的看護を探究する。

研究テーマの例

- 高齢者の健康・生活機能・セルフケア能力の向上に関する研究
- 老年症候群の発現予防や緩和を目指した先駆的な看護に関する研究
- 高齢者のもつ認知機能障害、皮膚・排泄機能障害、身体活動機能障害、疼痛などに対する看護の機能と特徴を明らかにする研究
- 在宅で生活する療養者および家族の看護に関する研究
- 個別・集団・地域を対象とした支援と看護に関する研究
- 訪問看護管理、退院支援に関する研究
- 人々の健康を支える地域ケアシステムや多職種連携に関する研究

綿貫成明 教授 藤田淳子 教授 大竹恵理子 准教授

成育看護学 小児看護専門看護師教育課程あり

小児看護学／母性看護学・助産学

子どもと家族を理解するための諸理論を学修し、現代社会における妊娠・出産、胎児期から思春期までの母子に関する保健・医療・看護の課題について考察し、母子とその家族を支える看護の研究課題と実践的看護を探究する。

研究テーマの例

- 小児看護倫理、子どもの事故予防に関する研究
- 子どもの生活習慣、食習慣、健康増進に関する研究
- 地域で療養する子どもと家族の看護に関する研究
- 子どもの難病、慢性疾患の看護、成人移行期支援に関する研究
- 開発途上国の母子保健、分娩環境、思春期教育方法の開発に関する研究
- 更年期女性の健康、健康教育プログラム開発に関する研究

来生奈巳子 教授 遠藤数江 准教授 渡邊香 准教授
日置智華子 准教授 野村智実 助教

感染管理看護学 感染症専門看護師教育課程あり

病院、地域、国際医療協力などの場における日常的な感染管理活動、感染症多発時や災害発生時における高度な感染管理、感染症看護実践に必要な知識と技術を学習するとともに、看護の質向上に資する方策を探究する。

研究テーマの例

- 感染管理活動の効果を検証する研究
- 医療関連感染サーベイランスデータを活用した研究
- 費用対効果分析等による感染管理活動の効率性評価に関する研究
- 感染症患者の看護や個人に対する感染防止のケアに関する研究
- アウトブレイク調査に基づく要因探索研究
- 皮膚常在菌の分布と手指衛生との関連の検討
- 輸入感染症対応に携わる看護師の準備性に関する研究
- 薬剤耐性微生物の伝播防止や抗微生物薬適正使用に関する研究

西岡みどり 教授 森那美子 准教授 網中真由美 講師

自律的に学習することの重要性を学びました

私は病院に勤務し、新人看護師への指導を担当していました。指導にやりがいを感じる一方、適切に指導できているか自信を持っていないこともありました。自らの学習の必要性を感じ、研究課程部への進学を決めました。研究課程部の授業は、学生が自ら学んだことを発表し、教員を交えた討論の形式によって進められます。そのため自らが課題の内容を深く理解すること、さらに学習した内容を要点を絞り授業参加者に伝えることを必要とされました。このような授業は、私にとって非常に難しいものでした。しかし、様々な文献を用い納得するまで調べたことにより、授業の内容を理解できるようになりました。入学前には想像していなかったほど多くのことが学べ、研究課程部における経験は私にとって大変有意義なものでした。現在、看護に疑問が生じたときには文献をもとに解決の糸口を見つけられるようになりました。これからも先人の研究から得られた知識を周囲の看護師と共有し、看護実践・教育に活かしていきたいと考えています。

看護教育学分野 前期課程
2019年3月修了

藤岡 亜未

後期課程(博士課程相当)

教育理念

前期課程(修士課程相当)で培ったヒューマンケアの精神、人間の健康に対する多面的な理解、科学的・論理的思考力の発展を図り、独創的な研究を自立して遂行できる人材を育成します。

教育目標

- 1 看護実践の科学的根拠の発見、効果的・効率的な看護方法の開発、それらを通じた政策医療看護学の発展につながる独創的な研究を自立して遂行する能力を育成します。
- 2 社会的諸状況を踏まえながら日本国民および世界の人々に研究成果を還元し、その健康と生活の質向上に貢献する能力を育成します。

教育の特徴

政策的機能看護学(国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学)、先駆的臨床看護学(成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学)の2分野から1分野を選び、前期課程(修士課程相当)において取り組んだ研究を発展させることができます。

専門分野の学修を行い、前期課程(修士課程相当)で培った能力を高めるとともに、博士(看護学)の学位取得に向けて特別研究論文を作成します。

特別研究論文を作成して学内審査に合格した後、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に申請し、論文の審査及び試験に合格することにより、博士(看護学)の学位を取得できます。

専門分野の教授陣が、学生個々の関心や状況に応じて細やかに学修や研究を支援します。また、他分野の教員からも研究に対する指導や助言を得る機会が豊富にあり、それは、自己の研究や専門性に対する視野を広げたり客観視したりすることにつながります。

授業科目

共通科目 政策医療看護学特論Ⅱ、量的看護学研究法、質的看護学研究法

専門科目 国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学、成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学

オープンキャンパス日程

- 新型コロナウイルス感染対策により、日程は未定です。
新しい情報は、国立看護大学校ホームページで随時紹介しています。確認をお願いします。
- 個別面談 (Web面談、電話相談等にも対応) は、随時受け付けています。
grad-nyushi@ncn.ac.jp へお気軽にお問い合わせください。

入試日程

- 新型コロナウイルス感染対策により、日程は未定です。
日程は国立看護大学校ホームページでお知らせします。
定期的なご確認をお願いします。

学費

入学科	授業料		
	前期	後期	年額
282,000円	267,900円	267,900円	535,800円

*入学科・授業料は改訂することがあります。専門看護師教育課程は、実習費用が別途必要です。

常勤で働きながら学ぶ場合、あるいは、相当の理由がある場合に、長期履修制度を利用できます。

これは、前期課程 (修士課程相当、修業年限2年) の履修期間を3~4年に、後期課程 (博士課程相当、修業年限3年) の履修期間を4~6年に延長できる制度です。履修期間を延長しても、全履修期間を通して納める授業料は、通常の修業年限の場合と同額です。

「一般教育訓練給付制度」が利用できます。

前期・後期課程が修了した場合、支払った費用の一部 (上限10万円) が給付されます。支給要件、申請等については、ハローワークのWebページでご確認ください。

問い合わせ先・アクセス情報

本学の受験に興味のある方は、随時相談をお受けしています。お気軽にお問い合わせください。

国立看護大学校 事務部学務課

研究課程部看護学研究科入試担当

〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

電話 042-495-2211 (代表)

内線 5110・5112・5114

E-mail: grad-nyushi@ncn.ac.jp

清瀬駅から大学までのアクセス

徒歩 西武池袋線「清瀬駅」南口から徒歩15分

バス 西武池袋線「清瀬駅」南口②乗場より

西武バス「復十字病院」下車 (5分)

※西武バスは、「久米川駅行」、「下里団地行」、
「花小金井駅行」、「滝山営業所行」があります。

